

う適切に対応」とも定められていますが、厚生労働省がマニュアルを作成するなど対応してはいるものの、現場の体制が追いつかないなど、問題は様々あるようです。

こうしたことから、虐待を的確に見抜くことの重要性が増してきている様子が伺えます。そんな中、当領域でこの問題に取り組んでいる、「虐待など意図的傷害予防のための情報収集技術及び活用技術」プロジェクトが、7月15日放送のNHKニュースおはよう日本で紹介されました。「幼い命を“科学”で救え～虐待を見分ける現場の模索～」と題した特集です。

その翌日は、「『改正臓器移植法』あす施行」と題した特集で、虐待を判別する難しさや医療現場の取り組みを紹介。改めて、プロジェクトの成果創出、社会での活用が期待されます。

また、「子どもの見守りによる安全な地域社会の構築 ハート・ルネサンス」と「被害と加害を防ぐ家庭と少年のサポート・システムの構築」プロジェクトについても、プロジェクトの取り組みに関連した内容がそれぞれNHKと中京新聞で報道されました。

「犯罪の被害・加害防止のための対人関係能力育成プログラム開発」プロジェクトでは、7月10日に連絡協議会を九州で開催しました。協議会には、小泉代表をはじめとした研究者ばかりでなく、協力いただいている小学校の先生等も参加。プロジェクトが開発を進めている教育プログラムを、各校で工夫しながら日々の学校生活・教育場面に導入を試みている様子を紹介。質疑が交わされ、子ども達に対する真剣な想いが伝わってきました。プロジェクト実施者も、より良いものにするため試行錯誤を重ねている様子。本プロジェクトでの取組については、後日、領域Webに掲載予定です。

「系統的な『防犯学習教材』研究開発・実践プロジェクト」でも、7月9～10日の2日間に渡り、4つの実証地域の関係者に集まっていただき、開発中の防犯指導支援システムの活用・改善を目的とした研修会を実施しました。初お披露目・使用ということで、率直な意見も寄せられていました。

日本学術会議総合工学委員会が主催した安全工学シンポジウム2010では、「子どもの安全」と題したセッションで、片山領域総括がこれまでの領域活動の振り返りも含めて発表。都市やインターネット、事故からの安全や、海外における子どもの安全に関する制度も含めた発表もありました。複数の発表に共通していたのが、日本は子どもの安全に関する取組みが遅れており、特に事故や傷害など安全に関する情報収集・分析・フィードバックがなされる仕組みが整っていないということ。この領域の中でも議論されていることであり、面白いセッションでした。

ここからは、今月号の内容について、少し紹介をいたします。

レポート1本目は、第1回若手の会連続セミナーについてです。若手の会とは、当領域で取組みを行っている、若手メンバーで構成される有志の会のこと。プロジェクトの垣根を越え、長期的な交流や議論をしていくことを目的として、昨年末に発足しました。今回は、そんな若手の会の自主企画第一弾で、4プロジェクトから計8名が参加して、大阪教育大学附属池田小学校を訪問。当日の様子を参加者の樋野公宏さんがご紹介してくださいました。

レポート2本目は、杉井清昌領域アドバイザーによる寄稿です。領域の立ち上げの時から、民間企業でのお立場やシステム開発、プロジェクト・マネジメントといったご経験から、幅広い助言をいただいています。記事には、これまでの領域とセンターに対してや、子どもの安全に関する社会問題について思うことなどが盛り込まれています。

それでは、最後までお楽しみください。



●第1回若手の会連続セミナー

「大阪教育大学附属池田小学校におけるハード面、ソフト面での安全への取り組みについて」に参加して
平成22年6月21日 大阪教育大学附属池田小学校（大阪府池田市）
独立行政法人建築研究所 主任研究員 樋野公宏
（「計画的な防犯まちづくりの支援システムの構築」プロジェクト）

平成13年6月8日、板橋区内の食堂で昼食中だった私はテレビで事件を知りました。その時の衝撃は日付とともに今もはっきり覚えています。

それから9年が経過し、若手の会の第1回目として初めて附属池田小学校を訪れる機会をいただきました。案内して下さった同校の校長で、「犯罪からの子どもの安全を目指したe-learningシステムの開発」プロジェクト代表でもある藤田大輔先生、今回のセミナー幹事の木宮敬信さん（同プロジェクトメンバー／浜松大学）にまず御礼申し上げます。

* 当日撮影した写真

→ <http://www.anzen-kodomo.jp/column/catcaffe/20100621.html>

阪急電鉄宝塚本線の池田駅を出た私を迎えたのは意外なほど「ふつう」の街でした。事件のこと以外に予備知識のない私は、物々しい雰囲気のある街を想像していましたが、むしろ活気のある駅前という印象を受けました。

しかし、学校まで歩く途中で見つけた、国道沿いに並ぶ緊急通報装置は、やはり事件後に設置されたようですし、街角の公園はどれも周囲の植栽が見通し良く手入れされ、防犯に配慮していることを伺わせました。

校舎に入るまでには二重のチェックがあります。まず、警備員が常駐する正門を通ります。ここで、事前に登録されていた名前と照合し、首掛け式のゲストカードを渡されます。出入りはこの1箇所にとられており、同じ敷地内の中学高校の生徒も利用します。

緩やかな坂を上ると、高低差により校舎の二階レベルにある玄関に着きます。ここがふたつ目のチェックポイントで、他に校舎内に入れる箇所はありません。玄関脇の事務室でゲストカードをチェックされると、電気錠が開錠され初めて校舎内に入れます。さらに、入って正面には見通しの良い職員室があり、来校者に職員からの視線が注がれるようになっています。

藤田校長の案内で、事件の現場となった東館1階、体育館との間の芝生広場、敷地南側の旧正門、その脇にある（犯人が侵入した）旧自動車通用門跡を視察しました。東館の1階は、事件を忘れないための「ふれあいギャラリー」などに改築されています。旧正門は閉鎖されて赤外線センサーが設置されています。

自動車通用門があった場所は高さ3mのフェンスが続いています。この辺りを視察する間、私はずっと身体が緊張したままで、旧正門近くに建立された「祈りと誓いの塔」の前で手を合わせずにはいられませんでした。

その後、特別教室、普通教室に案内されました。普通教室は見通しの良い引き戸で緩やかに仕切られ、一学年の三教室が互い違いに配置されています。これは、事件の反省を踏まえ、隣の教室で起こっていることに気づきやすくするためだそうです。

さらに、これらの教室の脇には仕切りのない「先生コーナー」が置かれています。先生方はそこで事務仕事を行うこととし、いつも子どもたちの近くに居られるようになっていきます。

ひととおり視察を終えた後、校長室で1時間ほどお話を伺いました。この校長室もガラス張りで運動場が見通せるようになっていきます（逆に、校長室がいつも見られているといった方が正確かもしれません）。安全教育、職員の意識向上、WHOによるInternational Safe School認証（今年3月5日付）など様々なお話を伺いましたが、紙面の都合上、私が最も関心のある登下校時の安全対策に的を絞って報告します。

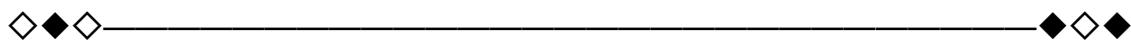
報告にあたり、まず附属池田小学校のふたつの特殊性に触れたいと思います。一つ目は言うまでもなく9年前の事件があった学校であるということ、もう一つは一般の市立校と異なり、遠方からも児童が電車で通学する府下有数の進学校であるということです。

登校時は駅から学校に至る9箇所PTAが立ち当番を実施し、下校時は（駅まで見送る1年生を除き）職員が巡回して安全確保しています。周辺の市立の小学校と連携した見守り活動が望まれるところですが、こうした活動を行っていない他校のPTAや教職員にとっては新たな負担となる場合もあるため、連携は今後の課題であるとのことでした。

校内の優れた安全対策について伺った後だけに、校外とのギャップが感じられました。

私が参加するプロジェクトでは、こうした立場の異なる主体の連携による「計画的な防犯まちづくり」を研究課題にしていますが、市町村立でない小学校がどのように地域との関係を構築していくかは新たに取り組むべきテーマのひとつだと認識しました。各PJの若手が相互に高め合うという「若手の会」の趣旨に照らすと、こうした課題を見つけられたことも収穫だと言えます。

今回の視察に参加し、「犯罪からの子どもの安全」というテーマの重要性を再認識するとともに、それに携わる研究者として身の引き締まる思いをしました。他の参加者も、それぞれの立場で収穫や感じるどころがあったことと思います。このような貴重な機会をいただいたことに改めて感謝いたします。



● 「3年間余の領域アドバイザーとして感じたこと、考えていること」
領域アドバイザー 杉井清昌（セコム株式会社 顧問）

本記事では読者の皆様に、日頃私自身が感じ、考えていることをお伝えし、今後の議論の発展に資したい。

1. 「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域の初心はなにか？

平成13年6月8日	大阪教育大学附属池田小学校児童殺傷事件
平成16年11月17日	奈良市小学生女児誘拐殺害事件
平成17年11月22日	広島市女児下校途中における殺害事件
平成17年12月2日	今市市女児下校途中における殺害事件

子どもを持つ親御さんを震撼させる事件が立て続けに起こり、学校、地域での安全・安心をいかに守るかが国民的課題になったことは皆さんの記憶に

新しいと思われる。

具体的には各地で防犯パトロールが開始された。しかし防犯パトロールは実施者にかなりの負担を強いるため、「いつまでやるの?」「どうしてやるの?」「本当に防犯効果があるの?」・・・と素朴な疑問が提出された。

つまり、防犯パトロールのやり方、効果に対する科学的根拠が問われたのである。ほぼ同時期にケータイを舞台とした「学校裏サイト」「プロフ」への書き込みに端を発する新しい犯罪が急増し、サイバー空間の安全安心をいかに守るかも喫緊の課題となってきた。このような状況下で社会技術研究開発センター（RISTEX）「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域が誕生した。

2. 「社会技術」とはなにか?

RISTEX「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域に関して3年余が経過した。この間、「社会技術」とはなにかについて考えてきた。

「犯罪からの子どもの安全」という社会的問題の解決は、いくつかの新技術が開発され、それが普及することで目的が達成されるというような単純なものではないだろう。

また、犯罪の様相は時時、場所場所によって百面相のように変わるものであることを考慮すると一気解決ではなく、長期戦に耐えられるやり方を生み出すことが求められると思う。

私たちがすでになじんできた社会リソース（学校、交番、保健所、防犯ボランティア団体、こども110番、・・・）は国民的財産と言える。

ただし、これらの社会リソースの多くは歴史的に見ても個々バラバラに誕生したものであり、そのままでは「犯罪からの子どもの安全」という目的完遂に役に立つかどうか保証できない。

したがって「犯罪からの子どもの安全」の視点から、今日的なリスクを分析し、そのリスクを取り除くように、地域ごとに現有の社会リソースを再統合する方法論を創り出すことが「社会技術」に値するものではないかと自分なりに考えている。

ここではまず個々の社会リソースの本質を理解したうえで、「犯罪からの子どもの安全」を実現する視点から各社会リソースの果たすべき役割を整理し、良い処方箋を提案することから始まるであろう。その中でIT、ネットワークカメラ、センサーのような新技術が必要となれば新規に開発すれば良いのではと考えている。

3. 等身大の発想で

ここ数年、自宅でも会社でも、いわゆる「迷惑メール」の量が急増している。中身はVIAGRA、通販、ポルノDVD通販、出会い系をはじめとする各種お誘い、・・・。

幸い私自身はすでに枯れた年齢なので無視することができる。もし自分が若く、そしてこれらのリアルかつ誘惑的な情報に四六時中さらされたとき、ふと魔が差す瞬間が訪れるのではないか、そのとき必ず自制できるかどうか、正直言って自信がない。

同じようなことが思春期を迎えた子どもたちの世界でも起こっているのだろうと推測している。人はいろいろな障壁があるとき、それを突破する際、少なからず良心の呵責を感じたり、冷静さを取り戻すものであろう。

しかし、ケータイという誰でもが持っているツールを介して、簡単に好奇心をあおるリアルな動画情報を見ることができ、ワンクリックで誰の手を煩わすことなく欲しい情報を入手できる環境ができあがったとき、それに対抗できる自制心の養成はいかにあるべきか。

性欲、名誉欲、嫉妬は万人共通であろう。これらに関する好奇心は隠されたもの見たさ、知りたさで一層高まる面がある。隠そうとすればするほど好奇心をかき立てるとも言える。であれば隠さないことを前提に、心身の発達段階に応じた教育を行う途を開拓する時期にきたのではないだろうか。

インターネットがもたらしてくれた「情報の爆発」は子どももわれわれ大人も初めての経験であることを肝に銘じて！

2. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報・今月の見どころ

【更新情報】

●国の取組み

青少年のインターネット利用環境実態調査の集計表（詳細版）の公表について（内閣府）

<http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h21/net-jittai/html/index.html>

平成22年度「青少年の非行・被害防止全国強調月間」について（内閣府）

<http://www8.cao.go.jp/youth/ikusei/hikokyo.html>

犯罪死の見逃し防止に資する死因究明制度の在り方に関する研究会における中間取りまとめの概要（警察庁）

http://www.npa.go.jp/sousa/souichi/tyukan_matome.pdf

子どもを犯罪から守るための環境づくり支援モデル事業に係る調査研究等報告書（警察庁）

<http://www.npa.go.jp/newlyarrived/?seq=3960>

法制審議会児童虐待防止関 連親権制度部会第5回会議資料（法務省）

http://www.moj.go.jp/shingi1/shingikai_jidougyakutai.html

少年矯正を考える有識者会議第7回議事概要（法務省）

<http://www.moj.go.jp/shingi1/shingi06400003.html>

「平成 21年度文部科学白書」（我が国の教育水準と教育費）の公表（文部科学省）

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/06/1294984.htm

第1回死因究明に資する死亡時画像診断の活用に関する検討会議事次第（厚生労働省）

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000c011.html>

その他の取組みについてはこちら

→ <http://www.anzen-kodomo.jp/ministries/>

●イベント情報

平成22年8月7日 日本教育心理学会2010年度公開シンポジウム
「特別支援教育と教育心理学—学校における
心理教育的援助の実践—」
小泉代表が指定討論に登壇されます。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jaep/japanese/rireki/moyooshi.html#2010sympo>

平成22年8月24日～GIS Day in 東京2010「GISと市民参加」
<http://www.ues.tmu.ac.jp/geog/2010/20100608.html>

平成22年8月28日～日本思春期学会 第29回大会学術大会公開講座
「思春期の健康なところとからだをはぐくむために」
<http://www.macc.jp/jsa29/>

その他のイベントについてはこちら

→ <http://www.anzen-kodomo.jp/event/>



【今月の見どころ】

今月の見どころはトピックスから、「犯罪からの子どもの安全」
プロジェクト実施者座談会 若手研究者が語る現状と未来です。

今回座談会を行っていただいたのは、4つのプロジェクトの若手
メンバーです。

教育学、都市計画、応用心理学、法学、と、それぞれ専門分野の異なる
実施者4名にご参加いただき、領域や犯罪からの子どもの安全に関連する
研究分野、当領域が推し進めている社会実装を見据えたチーム研究などなど、
さまざまなテーマについて思いを語っていただきました。
中には、若手ならではの苦悩も！？ぜひご覧ください。

トピックス → http://www.anzen-kodomo.jp/pdf/ad_03.pdf

3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング

【アクセスランキング】

☆1位 平成21年度研究開発実施報告書
「子どもの見守りによる安全な地域社会の構築 ハート・ルネサンス」
http://anzen-kodomo.jp/reporters/reports/pdf/report2009_ikezaki.pdf

2位 第2回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウム
「犯罪から子どもを守る司法面接法の開発と訓練」プロジェクト
ポスターデータ
<http://anzen-kodomo.jp/pdf/col09.pdf>

3位 第2回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウム予稿集
ページ(7)

<http://anzen-kodomo.jp/pdf/col04.pdf>

「犯罪からの子どもの安全メールマガジン」

▼メールマガジンに関する各種変更、配信登録・解除はこちら

<http://www.jst.go.jp/melmaga.html>

▼ご意見・ご感想、お問い合わせはこちら

c-info@anzen-kodomo.jp

■発行日 2010年7月28日

■発行元

(独) 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター

「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域

領域WEBサイト <http://www.anzen-kodomo.jp/>

社会技術研究開発センターWEBサイト <http://www.ristex.jp/>
